

2011年4月7日

「東日本大震災」に伴うセブン-イレブンの現況と対応について

店舗の営業状況等について

セブン-イレブンでは、地震発生当初、停電や、商品・備品の落下および建物の損傷等による休業が東北地方および茨城県を中心に約600店舗ございました。

セブン-イレブン・ジャパンは、被災地において食品を中心に物資が困窮する中、流通小売業としての使命ならびに社会的責任に基づき、止む無く休業せざるをえなかった店舗を1日でも早く営業再開すべく、また一部被災のあった店舗についても出来る限り営業を継続できるよう、全社員一丸となって取り組んでまいりました。

本部社員による応援体制をいち早く整備するとともに、商品供給ライン・配送ネットワーク等の復旧に全精力をあげて努めたことで、**4月7日現在の営業店舗は95%以上**となり、休業店舗は60店舗となっております。

【東北地方および茨城県のセブン-イレブン店舗営業状況（4月7日現在）】

	店舗営業状況		
	店舗数	営業中	休業中
岩手県	68	68	0
宮城県	331	297	34
山形県	140	140	0
福島県	379	355	24
茨城県	534	532	2
合計	1,452	1,392	60

休業中の60店舗には、宮城県中心に店舗建物の損傷等により当面の間、当該立地での営業再開が困難な約20店舗が含まれております

（こうした店舗については、他立地への移転を中心とした支援策を検討しており、早期に加盟店様の生活基盤が維持されるよう対応してまいります）

また、福島県の休業中24店舗には福島原発の影響による避難休業店舗16店舗が含まれております。

なお、営業中の店舗のうち、商品供給状況により営業時間を短縮させていただいている店舗が一部ございます。

加盟店オーナー様および加盟店従業員様等の安否について

4月7日現在、宮城県の加盟店オーナー様お一人の安否の確認がとれておりません。また、一部店舗においてオーナー様の奥様お一人および従業員六名の方がお亡くなりになっております（現時点での判明状況）。心よりご冥福をお祈りいたします。なお、従業員様につきましては安否確認がとれていない方が複数いらっしゃいます。

営業再開に向けた取り組み 【人的支援】

地震発生翌日の3月12日(土)以降、セブン-イレブン・ジャパンの本部社員が順次被災地に出向き、地震や津波の影響により休業した店舗の清掃や使用不可となった什器等の片付け、建物の点検・補修等を実施しております。

〔本部スタッフ：延べ約290名(予定含む)〕

	期 間	活動場所	活動内容等
第1陣 【約60名】	3/15～3/20	石巻、仙台、 名取等	休業約50店舗内の片付け・清掃等、 営業店フォローを実施
第2陣 【約60名】	3/21～3/26	石巻、仙台、 多賀城等	休業約10店舗内の片付け・清掃等、 営業店フォローを実施
第3陣 【約70名】	先行隊 3/25～4/2 本隊 3/28～4/2	石巻、仙台、 郡山等	配送センターの復旧応援、 休業約15店舗内の片付け・清掃等を実施
第4陣 【約50名】	4/4～4/9	石巻、気仙沼、 いわき等	休業約10店舗内の片付け・清掃等、 配送センターの復旧応援を実施中
第5陣 【約50名】	4/12～4/16〔予定〕	同上〔予定〕	休業約10店舗内の片付け・清掃等 実施予定

仙台や郡山の地区事務所等を拠点に、1チームを3～4名で編成、
店舗の被災状況により人員を配置
休業店内の清掃、片付け等を実施、営業再開できる状態へ復旧し、
再オープン後の店舗運営のフォロー、営業店の販売フォロー等を実施
第3陣の約70名のうち16名は配送センター(常温宮城北センター)の復旧・
運営応援を実施

〔本部 建築関係スタッフ延べ約10名、建築業者等約80名、計延べ90名〕

時期	活動内容等	累計店舗数(点検済)
3/12	建築設備本部4名が仙台の地区事務所へ出立	
3/13	宮城県店舗の点検等を開始	
3/17	仙台地区店舗の点検・補修工事等を完了	233店舗
3/18～3/20	古川地区48店舗の点検・補修工事等を完了	281店舗
3/22～3/24	石巻・白石地区59店舗完了〔宮城県完了〕	340店舗
3/25	福島県店舗の点検等を開始	
4/5	福島県内の約270店舗の点検等が完了	約610店舗

3/13以降、本部の建築設備スタッフ5名および建築業者様等でチームを編成し、
宮城県、福島県の休業店および営業店の点検(店舗・販売什器の破損状況、
ライフラインの復旧状況等)工事、補修、設備の調整、什器交換等を実施
* 応急処置により営業可能な店舗を先行して実施

営業再開に向けた取り組み 【商品供給、物流面】

地震発生からおよそ 1 週間後まで、東北・関東地方における、おにぎりやお弁当等のデイリー商品に係る原材料メーカー・デイリーメーカー（工場）・配送センター・包材メーカーの被災に加え、交通渋滞、燃料不足、計画停電等、広範囲に渡る問題により東北のみならず首都圏店舗においても、欠品、遅配、売場での品薄感が発生し、お客様の購買ニーズに対して十分な対応が出来ない状況となりました。

セブン-イレブン・ジャパンでは、こうした状況に対し、関係部連携の上、被災状況の把握に逐次努め、各地の工場や配送センターの復旧を推進するとともに、関東および新潟・北陸等の製造可能工場から東北地方の店舗へ商品供給（送り込み）するバックアップ体制、1 日 3 回配送体制の整備、受発注システムの稼働等にいち早く取り組んでまいりました。

一方、首都圏店舗においては、インフラ面の復旧、各工場や配送センターの復旧、物流面の改善等により、地震発生からおよそ 1 週間後には商品供給が全般的にスムーズとなり、4 月 7 日現在では、一部カテゴリー・商品を除きほぼ通常並みの品揃えが可能となってまいりました。

引き続き、オリジナル商品をはじめとする商品供給に全力をあげて取り組んでまいります。

【セブン-イレブン専用工場（デイリーメーカー）の稼働状況】

当初、東北地方の 12 工場すべて、関東地方の 72 工場中 29 工場、合計 84 工場中 41 工場が被災により商品製造が一時停止〔全国の工場：169〕
東北地方では、3/13 福島県にある焼きたてパン工場の稼働を皮切りに、順次復旧が進み、4/7 現在、12 工場中 11 工場が稼働中
〔残る 1 工場（仙台の米飯工場）：4 月下旬 稼働予定〕
関東地方では、3/12 から 3/23 までにすべての工場が稼働

【セブン-イレブン専用 配送センターの稼働状況】

当初、東北地方の 14 センターすべて、関東地方の 59 センター中 6 センター、合計 73 センター中 20 センターが被災により商品仕分け・配送業務が一時停止〔全国のセンター：149〕
東北地方では、3/12 福島県にある 5 センターの稼働を皮切りに、順次復旧が進み、4/7 現在、14 センター中 11 センターが稼働中
〔残る 3 センター：
福島県の常温センターは原発屋内退避エリア内にあり、郡山のセンターでカバー中
仙台のフローズンセンターは同地区に仮設センターを設置・カバー中
宮城県にある常温センター 2 センターのうち仙台の 1 センターが復旧作業中（県北部のセンターが 3/17 より稼働・カバー中）〕
関東地方では、3/12 から 3/14 までにすべてのセンターが稼働

【東北地方のセブン-イレブン店舗への商品供給状況について】

〔県別の概況（デイリー商品の送り込みの実施）〕

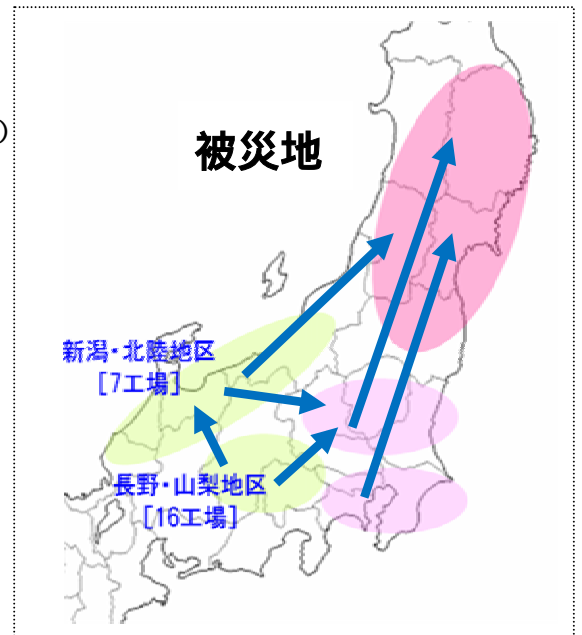
福島県：3/14、埼玉や千葉のデイリー工場からおにぎりやチルド弁当等の送り込みを開始。3/16以降新潟等の工場からの送り込みも実施し、順次カテゴリー等を拡充

山形県：3/16、北陸からチルド弁当の送り込みを開始、順次拡充

宮城県：3/16、仙台市にある配送センターが稼働可能となったことにより、宮城県内の営業店舗（当時約100店舗）へ1店舗あたりおにぎり295個（横浜の米飯工場で製造）の送り込みから開始。

以降、新潟県や関東のデイリー工場からの送り込みを実施、順次拡充

岩手県：3/17、埼玉や群馬のデイリー工場からチルド弁当や調理麺等の送り込みを開始、順次拡充



製造可能工場からのバックアップ体制イメージ

（震災直後より、デイリー商品、加食、雑貨の送り込みを実施）

〔デイリー商品の1日3回配送（3便制）について〕

各デイリー工場や配送センターの稼働率向上等に伴い、東北4県の営業中の店舗では、3/26より、おにぎりやお弁当等のデイリー商品の配送について、1日3回配送体制（3便制）を実現

〔受発注システムの稼働について〕

各デイリー工場や配送センターの復旧・稼働率向上に伴い、東北4県の営業中の店舗では、3/28から3/30までにデイリー商品のほか加工食品、雑貨すべての受発注システムが稼働

（通常通り、加盟店様による「発注」が可能になったことで、お客様のニーズに即した、精度の高い注文を受け付けることができるようになりました）

〔配送車両等における緊急車両の指定について（宮城県）〕

被災の影響が大きかった宮城県では、県との包括連携協定の締結（2009年7月）ならびに各種フェア等の継続実施といった実績等に基づき、震災発生後、セブン-イレブンの配送車両等について迅速に緊急車両の指定をいただきました。

【その他 商品供給に関する取り組み全般について（東北および関東）】
〔デイリー商品における製造アイテムの絞り込み〕

震災後、被災によるデイリー工場の稼働率低下、原材料・包材不足、計画停電による工場の生産効率の低下等により、おにぎりやお弁当、サンドイッチ等のデイリー商品においては、売れ筋商品を中心に製造するアイテムを絞り込み出来る限り生産効率を上げることで、加盟店様からの発注数に対して最大限納品する体制を構築

〔デイリー商品における代替原材料を活用〕

お弁当や調理麺等のカテゴリーで、調達が困難となった原材料については、別の原材料・メニューに切り替えることで、商品供給を継続

〔デイリー商品新規商品の推奨（発売）〕

地震発生以降、対応できていなかった新規商品については、4/11 週より、米飯・調理パン、調理麺、惣菜等の各カテゴリーで、ほぼ通常通りの新規推奨（新発売）ができる予定（東北を除く全国）

〔NB（ナショナルブランド）商品の供給について〕

NB メーカー様の商品のうち、工場被災により供給困難となったカテゴリー・商品については、各お取引様ならびにセブン&アイグループ各社と連携し、量の確保を図るとともに、代替商品を推奨することで売場における品薄感を極力解消

生活応援に向けた緊急セール・キャンペーンについて

セブン-イレブンでは、お客様の生活を応援するとともに、消費を喚起し続けることが日本経済の活性化に資すると認識し、当初予定セールに加え、3 月末より以下のような緊急セールを実施しており、今後も積極的に展開してまいります。

時期	内容	実施エリア
3/26 ~ 3/30	おにぎりセール (160 円未満の商品：100 円)	東北、関東・山梨・長野の計 約 7 千店
4/1 ~ 4/5	中華まんセール (「肉まん」：20 円引き)	休業店を除く全国の店舗
4/6 ~ 4/10	フライヤー・フランクセール (全品：10%引き)	休業店を除く全国の店舗

計画停電への対応 〔東京電力管内：約 5,960 店舗〕

	対応
店舗	各店舗に設置の非常用バッテリーを活用することで 夜間含む停電中にも営業を継続 アイスクリームについては、出来る限りドア付き冷凍リーチ インに移動 残ったアイスケースの商品も下段にまとめ、ビニールや ダンボールで覆うことで品質を保持（販売は一時見合わせ）
デイリー工場	停電予定時間を見極めながら、前倒しの製造をすべく 製造タイムテーブル等を見直し アイテムを絞り込み生産効率を高めることで量の確保に注力

節電対応

時期	対応	エリア
3/13 ~	店頭誘導看板（サインポール）や 事務所蛍光灯等を消灯	東北・東京電力管内の 約 7,270 店舗で実施
3/15 ~	上記より節電効果を見込む、 入口ドア上の看板（店頭看板）を消灯 * 店頭誘導看板は点灯	被災地域を除く全国の 店舗で実施
3/18 ~	上記に加え、日中の空調設備（暖房） の休止	被災地域を除く全国の 店舗で実施

今夏の電力不足問題に対応するため、看板の消灯や空調温度設定の見直し等、さらなる節電対策を順次進めることで、電気使用量で昨年比約 20% 以上の削減を計画しております。

情報システム対応について

店舗ネットワークの常時監視システムと停電通知システムを活用することで、店舗回線の不具合や停電店舗数等、店舗被災状況を迅速かつ逐次把握
店舗における停電状況等を把握し、関係部と共有・連携
（温度管理を必要とする商品の送り込み実施の判断材料とする）

ご参考：センターシステムの二重化について

セブン-イレブン・ジャパンでは、1997 年より順次、発注や情報分析に係るセンターシステムの二重化（横浜と大阪で相互にバックアップ）体制を構築しております。

以上